

# Halu 農法オンライン講座 応用編テキスト(11月)

## 応用編（実践編、座学編）

< 実践編 >

### 1 今月の収穫

10月とほぼ同じ状況ですが、人参、大根ともに大きくはなっていますので、多少小さめでも収穫は可能です。

**人参**：人参は通年栽培できる野菜であり、またある程度育ったら、いつでも収穫可能な便利な野菜でもあります。動画では、今年の異常気象の中で育ちが遅い人参の様子をご覧いただいておりますが、小さいものでも、サラダとして食べる分には申し分ありません。また、葉っぱは天ぷらにすると、とても香ばしく美味しくいただけますので、ぜひお試しください。収穫には少しコツが必要です。茎を引っ張ると切れてしまうことが多いので、人参の周りにスコップを入れて、土をほぐしてから、なるべく人参本体をつかんで引き抜くと良いでしょう。

**大根**：千葉県 of Halu 農園では8月最終週から9月に種まきしたので、よく成長していますが、しっかり根が太るまであと少し時間がかかります。青菜が欲しい場合は、大根の外側の葉を切って収穫し、炒め物や味噌汁の具にしても良いと思います。中心から新しい葉がどんどん出てくるので、ちゃんと根は太ります。

**大豆（補足）**：大豆を育てている方は、サヤが黄色く色づいてきたら収穫可能です。茎が硬いので、しっかりしたハサミ（剪定ばさみなど）で株元を切って収穫します。カラカラに乾くまで乾燥させます。乾ききると、自然にはぜます。

### 2 今月の種まき

ソラ豆、エンドウ豆

この時期は、来年春（4月～5月）に収穫するためのソラ豆、エンドウ豆がお勧めです。種はホームセンターで購入してください。詳しくは動画でご紹介しますが、たくさん収穫できるように、両方ともマルチという資材を使います。乾燥や雑草の繁殖を防止したり、地温を上げたりする効果もあって、大変重宝する資材です。

マルチの張り方については、基礎編の動画「マルチの使い方」を確認してください。

また、地方によって違いますが、寒さが厳しくなってくる11月中旬以降は、直接種まきす

るのではなく、苗を育てて、その苗を畝に植える方法も有力です。

種まきあるいは苗の植え付けが終わったら、防寒のための被覆を行ないます。これについては「冬支度 支柱立てと被覆」の動画をご覧ください。

### 3 冬支度 支柱立てと被覆

種まき、あるいは苗の植え付けができたなら、冬の寒さ対策をします。使う道具は、アーチ形の支柱、不織布、不織布を止めるパッカーという道具です。いずれもホームセンターの農業資材コーナーに置いてあります。支柱の直径は 11mm ぐらいが良いでしょう。また、不織布は、農業用のものは 100m~200m と長く、また高価なので、100 円均一のお店で用意することをお勧めします。適当な大きさに切ってお使いください。また、不織布を留めるパッカーという道具は、ホームセンターで 11mm の支柱に使うものを定員さんに聞いてみると良いでしょう。

使い方は、動画でご説明します。この不織布で防寒しておくこと、冬の冷たい風で凍ることもなく、野菜がゆっくりですが成長してくれます。

以上

#### ■講師・監修 横内猛

農業技術研究所（農業生産法人） 株式会社歩屋 代表取締役。

食と農ジャーナリスト。

慶應義塾大学経済学部卒業後、全国紙記者を経て、「すべての人が幸せに暮らせるコミュニティのあり方」を求め、主に福祉や教育の現場にかかわる。（1986~2006 年）

さまざまな社会問題がいつそう深刻化していくなか、問題の根本に「食と農の歪み」があるという考えに至り、自ら画期的な農業技術である「自然農法」に注目し、新しい農場技術の研究を始める。（2007 年~現在）

独学で試行錯誤を重ね、自然農法の仕組みを考察し、2013 年 8 月には、大玉スイカやマスクメロンの栽培に成功。

2015 年 7 月特許取得（方法特許 第 5770897 号）

この技術をさらに深め、新しい自然観、新しい社会の構築を提案しています。